

「日本語でインターアクション」 実践報告会
実践発表者の発表項目

発表者名	藤沢 明美
ビジターセッション実施日	3月18日(水)
教育機関名	松戸市日本語ボランティア会
対象学習者(レベル、人数、国籍)	12名中当日8名(中国5人、タイ、フィリピン、ブラジル)
実施コース	初中級クラス(「みんなの日本語 I・II」修了レベル)
使用課	3課(カルチャー教室に参加したい)6課(電話の掛け方)
ビジター(日本人側)	日本語ボランティア(通常クラスのボランティア)6名
導入と準備	1)カルチャーセンター、サークル活動など聞いたことがあるか、きく。 2)何か習いたい、勉強したいと思ったことはあるか。 国では、どんなことをしたか。自由に発言する。 3)チラシを見せ、イメージややってみたいものがあるか。自由に見る。
さあ、ほんばん! (インターアクション活動)の流れと 様子 (PART3前半)	1)実際に電話をかけてみる。ボランティアを相手に。 ①やってみてどうだった。聞いてどうだった。 良かったところ、もう少し変えた方が良いところを出し合う。 ②サークルやイベント、ボランティアに参加したいとき、難しいと思うことはなにか。 ③どんな情報が必要か。(知りたいことは何か)どうやってその情報を聞かか。 自由に出し合う。 2)それぞれ、どんなサークルやカルチャーセンターに参加したいか、選ぶ。 3)自分が興味を持ったチラシを見ながら、ボランティアを相手に電話の練習をする。
振り返り (PART3後半)	(振り返りの流れ・方法) 1)やってみてどうだったか、話そう。 良かったところ、難しかったところ、うまく言えなかったと思うところを出し合う。 やってみて感じたことを言う。 ボランティアから電話の応対で感じたこと、感想を言う。 2)話したことをまとめて用紙に書く。 ①聞きたいことが聞けた。②聞きたいことが聞けなかったこと。 ③何と言って電話をきったか。④難しかったところ。⑤やってみての感想 (学習者のコメント) ・おもしろかった。緊張した。 ・「お住まいは？」と聞かれて、わからなかった。これからやってみたいことあったら電話してみたいと思います。 ・思っていたことと違うことが後でわかった。確認することが大事だと思った。大事なことは前もってメモしておくのと良いと思う。今度興味がある教室があったら、体験してみようと思う。 ・自信が付いたから、今度やってみます。 (ビジターのコメント) ・カルチャーセンターを知らなかったことに驚いた。 ・結構話せるのに、日本人の中に入っていくのが怖いといっていたのが、意外だった。 ・顔を見て話してしまったのは、良くなかったが、ついお互いに電話でなく、話してしまった。 ・余計なことまで、親切に聞いたような気がする。 ・言うことはできても、それを文字にするのが、できてないことがわかった。
まとめ・感想など	・いろいろなチラシを見て、興味を持ってくれたことは良かったと思う。 ・いつものボランティアだったので、慣れもあった。携帯を使って電話した方が良かったと思う。 ・ボランティアも活動になれることも必要だと思う。(学習者の気づきを待つこと)